

さんま棒受網漁業 歴史的な不漁

平成 29 年度の全国のさんまの水揚げ量は、7 万 7169 トン（前年比 70%）と 1969 年の 5 万 2000 トン以来、過去 2 番目の凶漁となりました。資源の低迷や海流の変化で日本近海に群れが集まらなかったことや公海上での中国・台湾による乱獲が不漁の原因だったとされています。一方、魚体の小型化も目立った中で、1 キロあたりの単価は 278 円（前年比 130%）の高値となりましたが、水揚げ量の落ち込みをカバーできず、最終的な水揚金額は 214 億円（前年比 92%）と前年を下回る結果となりました。

このような歴史的な不漁に対して、2 月末迄に「ぎょさい」で約 7 億円、「積立ぷらす（漁業者＋国）」で約 6 億円、合計 13 億円の支払いを行いました。

全体的な不漁に加え、水揚げ量の船間格差が大きかったのも今漁期の特徴であり、特に漁に恵まれなかった方の水揚金額の減少が大きく、その減収を「ぎょさい」と「積立ぷらす」で補てんすることができ、漁業経営のセーフティーネットとしての役割を果たせたのではないかと思います。

さんま棒受網漁業は 3 年連続で不漁が続いていますが、平成 30 年度は豊漁であることを祈念しますとともに、他の漁業においても不漁や自然災害の備えとして、多くの漁業者の方々に「ぎょさい」と「積立ぷらす」をご活用して頂けるよう、関係者の皆様のご支援・ご協力をお願いします。

平成 29 年度の加入実績（2 月末累計）

（単位：百万円）

区 分	共済金額			漁業者積立額		
	29 年度	28 年度	前年比	29 年度	28 年度	前年比
漁 獲 共 済	293,264	281,154	104%	11,506	10,902	106%
養 殖 共 済	180,182	162,994	111%	6,435	5,408	119%
特 定 養 殖 共 済	99,062	90,977	109%	3,487	3,240	108%
漁 業 施 設 共 済	17,526	15,967	110%			
地 域 共 済	9,853	9,059	109%			
合 計	599,887	560,151	107%	21,428	19,550	110%